

編集を終えて

講座「老舗に学ぶ京の衣食住」は平成二十年度の冬期から始まりました。佛教大学四条センター講座案内には次のように講座の説明を載せております。

「この講座は「一寸変わった京都学」とも言えます、「本物の京都学」とも言えます。受講生の皆さんに第一次資料(プライマリソース)から直接京都について学んでいただくものです。京都の老舗に関わる方に、お店の歴史やその製品、品物についてお話をさせていただきます。製品、品物の実物や写真も見せていただきます。京の衣食住を老舗から直接学んでいただければと思います。」というものです。

四条センター所長在任中に、コーディネーターとしてこの講座を始めました。京都には老舗が多くあるとはいえ、日程調整が難しく四苦八苦しておりました。そんな折、お知り合いの老舗の御主人の日程調整の労を取って下さったのが、井上富三子さんです。老舗に生まれ、祇園を走り回って大きくなったとおっしゃる井上さんのお陰で、平成二十一年一月から平成二十四年三月まで三年三ヵ月、計三十八回、老舗の話を聞きする事ができました。

昭和五十九年に新しい大学の在り方を追求し、四条烏丸に開設された佛教大学四条センターは、日本の大学の生涯学習センターの先駆けであります。この「老舗に学ぶ京の衣食住」は、生涯学習センターの老舗であり、京都のど真ん中にある四条センターならではの講座と言えるのではと自負しております。

四条センター開設者の水谷幸正前理事長(現相談役)は、この場は「心がたくさん集まる場に」、「物が集まるデパートではなく、心が集まる心のデパートに」とおっしゃっています。この講座は、現在の多くの心に加えて、長い歴史が伝えた心や、新しい時代に向う心が集まり、まさに「心のデパート」の具現化を果たしているといえます。

また、平成二十二年度には年間受講者数が約四万となり、文字通り日本一になった四条センターは、学習者、講師、四条センター職員の三者が互いに尊敬し合い心を通わせる学びのトライアングルを形成し、アンドラゴジー(成人教育)の理想をも具現化しています。

ご多忙の中、講師を務めていただきました老舗の皆さまに厚く御礼申し上げます。思文閣出版の原宏一氏には大変お世話になりました。また、自然堂の藤井ゆい子氏には文字起こしと編集にお骨折りいただきました。ニュアンスを残して文字にするのは至難の業と存じます。四条センター職員は講座にかける情熱同様、叢書の編集、校正にも力を注いでくれました。お陰さまで、より多くの方々に京の衣食住を老舗から学んでいただけることとなりました。ただ、奥深い京都の文化のことですので、編集、校正に行きとどかない部分があるかと存じます。どうぞご海容いただきますようお願い申し上げます。

一冊の本では、全ての講座を取り上げることができず、衣食住のバランスを考えて十六講座のみを掲載致しました。全三十八講座、どれも貴重なお話でした。この後も出版を願っております。

最後になりましたが、推薦の言葉をいただきました京都市長門川大作様、茶道裏千家大宗匠千玄室様に心より感謝申し上げます。